

特集

〈事例〉

組織活動を活発にして あらゆる方策にチャレンジ

公益社団法人
桶川市シルバー人材センター

(埼玉県)

桶川市SCでは、長く減少傾向にあった会員数が平成28年度に400人台まで落ち込んだことへの危機感がきっかけとなり、会員増強に注力した。入会説明会の工夫、組織運営の活性化、特別会員制度や会員の自主・自立意識を高めるためのポイント制度の創設など、「まず、やってみる」の姿勢であらゆる方策に挑戦。これらが奏功し、平成30年度の会員数は前年度より約10.8%増の563人となった。

センターの概況

桶川市は、古くは中山道の宿場町として、明治以降は麦やサツマイモ、紅花などの集散地として栄えた。埼玉県のほぼ中央に位置することから、現在は交通至便な首都圏近郊の住宅都市として発展している。

桶川市SCは昭和六十一年に設立し、平成二年に社団法人、平成二十四年に公益社団法人に移行した。平成三十年度は、会員数が前年度に比べて約一〇・八%増加して五百六十三人となった。会員増に伴って、請負事業、労働者派遣事業とともに契約金額は前年度を上回る実績を残した。

会員数の推移

会員数は、平成十七年度の六百七十五人をピークに減少傾向が続き、平成二十八年度は五百人を割り四百九十四人になった。

この間、センターの年会費を平成十八年度から段階的に引き上げて、現在は三千五百円としている。また、会員の高齢化により、退会者が年間百人を超える年度もあった。加えて、高齢者雇用安定法の改正（平成二十五年四月施行）を機に雇用延長などに取り組む企業が増えるという社会情勢の変化もあり、会員数の減少に影響したと考えられる。

会員増強に向けた対策は以前か

ら実施していたが、なかなか結果が出ず、西崎信隆理事長は「四百人台まで落ち込んだことに一段と危機感を抱き、奮起しました」と平成二十九年度当初を振り返る。そして、「やってみないと分からない。まず、やってみよう」という積極的な姿勢で、あらゆることに挑戦する日々が始まった。

会員増強への取り組み

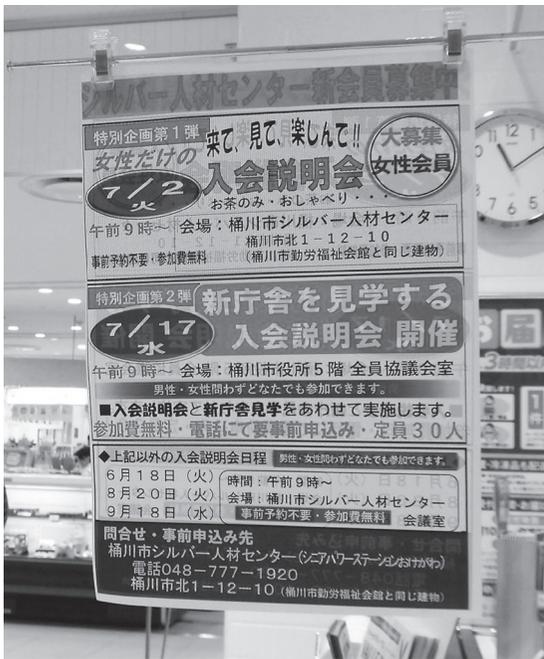
着手した方策は大きく三つ。

一つは、組織運営を活発にする自主・自立の推進。二つ目は、組織力を生かした積極的な広報活動。三つ目は、入会説明会の創意工夫と開催回数増加である。

具体的な内容は、次の通り。



入会説明会の開催を周知するため、スーパーマーケットでチラシの配布(写真上)およびポスターの掲出(写真下)を行った



【積極的な広報活動】
受け身の広報活動から、積極的

兼事務局長は説明する。

を実施したりして、楽しく取り組んでいます」と小澤晴信専務理事

と記念品と交換できる。「アナログ方式で行っていますが、効果は出ています。満点になった会員の氏名を『事務局ニュース』に掲載したり、ポイント二倍キャンペーン

すると三ポイント、入会することで五ポイント獲得などの決まりがあり、満点の二十ポイントになると

ト制度を創設。内容は、先進センターを参考に工夫して定めた。

センターの基本理念「自主・自立、共働・共助」の下に、センター事業に会員が参画することを目的として、平成三十年度にポイント制度を創設。内容は、先進センターを参考に工夫して定めた。

独自の懇親会、小遠足・食事会などの活発な活動がある。特別会員は、令和元年十二月末日現在で十四人。

もう一つは、退会を申し出る会員と事務局職員が面談して、丁寧

【自主・自立の推進】

① 組織運営の活性化

「チェンジ・ナウ」をスローガンに掲げ、組織運営の活性化に取り組んだ。例えば、六つの委員会

(総務、広報、会員増強、就業開拓、安全就業推進、就業適正化)

では課題と施策を明確にし、年四回以上の活動を実施。平成三十年

展望を発表し、感想や意見を交わす場。発表会後は昼食を共にして懇談する。これらにより委員の意識が高まり、以前にも増して真剣な活動が行われている。

② 退会者の抑制

一つは、未就業会員の解消。公園の花壇に花植えする年間十日ほどの就業を行う際、未就業会員に声を掛けて、就業機会の確保を図っている。従来以上の積極的な声掛け、電話掛けに努めている。

「ゴールド会員倶楽部」として、会活動への参加も可能。さらに、

「ゴールド会員倶楽部」として、

への参加・協力活動のほか、互助

議決権、さまざまなセンター事業

への移行を推奨したりしている。

特別会員は一定要件を満たし、自

は、令和元年十二月末日現在で十四人。

に攻める広報活動に転換し、次のことを実施している。

①ポスター掲示

入会説明会やセンターのポスターを公共施設、自治会の掲示板、役員をはじめ会員の自宅にも掲示。各団体などに依頼し、掲示箇所を増やしている。掲示や旧ポスターとの張り替え作業は、役員・委員会委員が担当している。

②チラシ配布

センター主催の「おけがわシルバーマつり」をはじめ、市民まつりなどのイベントに参加してチラシを配布するほか、役員、女性部、委員会委員が入会説明会の開催案内チラシをスーパーマーケットの協力を得て入り口で配布（店内にはポスターを掲出）している。また、出張入会説明会の開催地域でポスティングをするほか、自治会の協力で会員募集チラシの全戸配布を実施。

③一人一声加入運動

口コミ促進策として「一人一声



女性のみを対象に開催した入会説明会（写真上）。新しくなった市役所の見学（写真下）を兼ねて出張入会説明会を実施した



加入運動」を実施。特に九〜十月は会員募集キャンペーン月間と称し、「シルバー人材センターを語ろう！」と全会員がチラシを活用し声を掛け、口コミを促進している。

「入会説明会の創意工夫」

月一回の定期的な入会説明会のほか、女性対象の説明会、出張説明会を実施。毎回理事二人が出席し、入会動機や就業体験を語る時間を設けている。

令和元年度の実施状況は、次の通り。

①女性だけの入会説明会

女性のみを対象とした説明会を七月に開催。参加者は四人と多くなかったものの全員が入会した。さらに、第二弾として令和二年二月に「ビューティーメイクアップ講座と入会説明会」を開催。外部から招いたビューティーセラピストによる講座と説明会をセットに

した初の企画で十九人が参加した。②新庁舎見学と入会説明会

新しくなった市役所の見学を兼ねた出張入会説明会を七月に開催。市長・市議会議長の協力で、閉会中の議場内に入ることもでき好評だった。通常の説明会より多い十三人が参加した。

③介護施設で出張入会説明会

役員が就業開拓活動をしていた際、訪問先の介護施設から「センター事業に関心があるので説明会を開いてほしい」と依頼され、平成三十年度に出張入会説明会を行った。介護施設といっても、就業ができる人も入所している施設で三人が入会。すぐに仕事が見つかり、全員が就業を続けている。就業先は、入所施設から歩いてすぐの別の介護施設。仕事は配膳・下膳の補助である。

小澤事務局長は「介護施設が近くにあり、このようなマッチングが実現しました。この入会説明会は思いがけない取り組みでしたが、



事務局内に設けたサロン。会員の休憩や地域住民との交流の場として活用している

当センターが間に入ること、働きたい人と、人材を募っている施設とを円滑に結び付けることができた事例です。今後、こうした事例が増えていくのではないかと話した。再び開催する意向だ。

シニアパワーステーション おかげがわ

「シニアパワーステーション」は、公益財団法人いきいき埼玉が平成三十年度に募集し、最優秀賞

西崎理事長は「さまざまな方策に取り組んで、それらが徐々に効いてきて、平成三十年度の結果に表れました」とこれまでを語った。平成三十年度は百六人が入会（前年度比三十人増）し、五十一人が退会（前年度比十一人減）して、五十五人の増加となった。

「第二次会員百万人達成計画」に向けた目標会員数は、平成三十年度時点で総数は達成している。

今後に向けて

に選ばれたシルバー人材センターの愛称（本誌平成三十一年三月号「センターだより」掲載）で、埼玉県内のセンターが活用している。これは、小澤事務局長が応募した愛称で、「受賞には驚きましたが光栄です。どんどん使用しています」と笑顔で語る。ポスターやチラシなどに「あなたの街のシニアパワーステーションおかげがわ」と書き添えて、元気なセンターをアピールしている。

小澤理事長は、もう一つの課題として「二年前から入会説明会の参加者にアンケートを行っていますが、すぐに入会したい人ばかりでなく、少し先のために知っておこうと参加する人もいますので、今後はアフターフォローができるようにしていきたい」と語った。

桶川市SCでは、「楽しいセンター」を目指しているという。小澤事務局長は「お願いでも相談事でも、会員が何でも話せる事務局でありたい」、西崎理事長は「会員も

しかし、女性会員比率や粗入会率の目標値に届いていないため、それらが課題となっている。

「まずは、女性会員の就業開拓が重要。女性部による独自事業として、イベントなどで赤飯を製造・販売しています。とても好評で、総会のお祝いとして配布して会員にも大人気です。こうした元気な活動例を生かし、新たな就業を見いだしていきたい」と西崎理事長は語った。

地域の人も、和み、集える場になりたい」と抱負を述べた。

一年ほど前から、事務局の一室をサロンと名付け、会員や地域の人がお茶を飲む場になっている。サロンの今後も楽しみみである。

（増山美智子）

事業運営状況 (平成26年度～平成30年度)

年度	会員数			粗入会率	就業実人員 (延人員)	就業率	受注件数	契約金額	公民比
	男	女	計						
平26	435	113	548	2.2	521 (59,291)	95.1	2,442	234,704	48.5/51.5
27	404	102	506	2.0	501 (61,258)	99.0	2,549	245,987	46.4/53.6
28	390	104	494	1.9	470 (61,206)	95.1	2,592	250,184	46.3/53.7
29	398	110	508	2.0	487 (63,361)	95.9	2,700	265,470	46.2/53.8
30	438	125	563	2.2	542 (67,068)	96.3	2,794	281,975	45.7/54.3

*平成28年度以降の受注件数、就業延人員、契約金額は請負・委任と労働者派遣事業を合計した数値
 **就業実人員は平成29年度まで請負・委任、平成30年度は請負・委任と労働者派遣事業が対象